



甲南子育てひろば

ぽけっと

No. 110 2021年10月号

ひろばのTwitterで
最新情報を
確認してから
ご来室ください。
ID: kw_hiroba



ひろば再開です！

大変お待たせをいたしました。10月4日(月)からようやくひろばが再開できる運びとなりました！
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ご利用は予約制となり午前・午後の部でそれぞれ5組までの利用となります。
皆様の元気な姿が見られることを職員一同楽しみに、ご来室を心よりお待ちしております。

【リレートーク！】

ご好評いただいている本学の先生方によるリレートーク♪先生方のコラムには子育てのヒントが沢山詰まっています！
今回は、人間科学部 総合子ども学科 准教授 軽部 勝一郎先生より寄稿いただきました。

人間科学部総合子ども学科 准教授 軽部 勝一郎 先生

宿題はいつ頃始まったの？

この春、息子が小学校に入学しました。入学式で配られた真新しい教科書を見て、40年前の自分を思い出し、なんとも言えぬ感慨に浸りました。園と小学校の違いは多々ありますが、やはり一番の違いは教科の学習が始まることでしょう。

教科の学習がスタートし、新たに宿題という作業が加わりました。宿題は学習の理解と定着を図るために課されますが、翌日の授業までにこなさなければならない「課題」でもあります。宿題は学生時代と共に終わりますが、「課題」をこなすことはその後の人生でも続きます。人生にはクリアすべき「課題」があることを、わたしたちは宿題を通して無意識のうちに学ぶのかもしれませんが。

息子が持ち帰る宿題は、ひらがなの書き取り、国語の教科書の音読、計算カード、計算ドリル等、多彩です。自分が就学した40年前にも、このように多彩な宿題が課されたのか記憶が定かではないのですが、基礎基本の定着と家庭学習を重視する現代の教育政策が反映していることを実感します。宿題のお目付け役は妻にほぼ委ねてしまっているので、妻にはこれまでも増して、頭が上がりなくなりました…。

先日、新聞を読んでいると、作家の瀬戸内寂聴さんが「小学校の長い夏休みが終って…腕一杯に余る夏休みの宿題をかかえ…登校する時の、気の張りが思い出される」（『朝日新聞』2021.8.12）と書いておられるのを目にしました。寂聴さん（御年99歳）の頃も夏休みの宿題はそんなに多かったんだ！と、ちょっと驚かされました。おそらく昭和の初め頃のことだと思うのですが、家の手伝いや兄弟の世話をし夏休みを過ごす子どもが多かったので、宿題はごくわずかに課される程度だろうと思っていたからです。

調べてみると、寂聴さんが子ども時代を過ごしたであろう1930年頃に、家庭教育の重要性が説かれるようになったようで、東京のとある小学校では「お子様方の教育そのものは、決して学校ばかりでは出来得るものでは御座いません…家庭教育は、児童教育の基礎をなすものであると、誰方もが申して居ります…学校教育も出発を家庭に求め、各御家庭と充分なる連絡を図らねばと存じます」（大門正克『民衆の教育経験』）と、学校だよりに書いて、保護者の協力を訴えています。当時は日本のほぼすべての子どもが小学校を卒業するようになった時期であり、総合学習や作文教育が盛んに取り組まれた時期でもありました。おそらく宿題も、この頃から子どもの日常生活に根づいていったのでしょう。

100年前の祖先たちもあくせく取り組んだ宿題は、わたしたちの学びには切っても切り離せないものなのかもしれません。それをこなすことで基礎基本の理解と定着が図られるとともに、その後の人生にもつきまとう「課題」をこなす能力をわたしたちは身につけるのかもしれませんが。しかし、コロナ禍で宿題が増え負担を感じている子どもたちが増えている、との調査報告もあります（高橋智氏らの調査）。家庭学習は重要とは言え、子どもに過度の負担を強くない、子どもの発達段階に沿ったものにしていく必要があるでしょう。

宿題のように他者から与えられる「課題」のない世界は天国です。就学前の子どもたちはそんな世界に生きています。息子にもそんな世界をもっと満喫させてあげられればよかったかもしれないと思う、今日この頃です。



【おとどけ・ひろば工作】

ひろばが閉室している間、みなさんに少しでもおうちで楽しい時間を過ごしていただけるよう、無料工作キット発送サービスを実施していました。開室後はひろばにも置いてありますので、まだ作っていない方はぜひお持ち帰りください♪ 10月はハロウィンにちなんだ工作キットもご用意する予定です。お楽しみに！



でんでんだいこ



ぶどう



プレゼントメダル



【わいわいトーク】

当ひろばの「わいわいトーク」とは、大学教授が中心となって進める座談会・講演会に加え、夏祭り・ハロウィンパーティーなどの季節を楽しむイベントも含まれます。

現在はコロナ禍で対面での開催が難しいため、みなさまに気軽にご覧いただけるオンデマンド型の“わいわいトーク”を順次お届けしています。

1回の講座は15分前後なので、子育ての合間にも見やすくまとめられています。ぜひご視聴ください！

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 「マザリーズとモーショニーズ」
人間科学部総合子ども学科 教授 伊藤 篤 |
| 第2回 | 「習い事と学校適応」
人間科学部総合子ども学科 教授 梅崎 高行 |
| 第3回 | 「人とかかわる力の発達心理学・豆知識」
人間科学部総合子ども学科 准教授 松井 愛奈 |
| 第4回 | 「子どもと新型コロナウイルス感染症」 NEW!
人間科学部総合子ども学科 教授 八木 麻理子 |
| 第5回 | 「育児と防災」 NEW!
人間科学部総合子ども学科 准教授 相澤 亮太郎 |

＼ここからアクセスできます！



【おすすめ絵本】

本学、人間科学部 総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるお薦め絵本の紹介です。
 今月は、友澤有咲さん「はっぱのおうち」（征矢清/作・林明子/絵 出版社：福音館書店）と
 梅本咲希さん「おしくら・まんじゅう」（かがくいひろし/作 出版社：ブロンズ新社）です。



はっぱのおうち

征矢清さんの他の作品
 「かさもっておむかえ」 福音館書店(1977年)
 「ぼんたのすき」 福音館書店(2007年)

征矢清さん・林明子 絵

サイズ 226x241mm
 発行所 株式会社 福音館書店
 発行年 1985年

主人公さちが
 庭で遊んでいると雨がポンポン。
 雨がふりやあまではっぱのおうち
 で雨宿りをします。おうちには
 かまきりやあやもはじめとする
 様々なお客さんがきてみんな
 仲良く雨がふりやあまの待つ
 おはなです。最後は
 雨がやみ、それぞれの
 本当のおうちへ
 帰っていきます。

あらすじ

友澤有咲

～対象年齢 2.3歳から～

オススメの理由 ①
 次々におとすれる
 虫のお客さんのページを
 めくるごとに次は誰が
 来てくれるかな?!と
 ワクワクしながら読
 み進めることが
 できる

オススメの理由 ②
 林明子さんの
 かわいらしいやわらか
 なタッチの絵に注目
 すると、言葉に
 お子様たのびはやく大人
 までホッとする
 優しい温かみ
 がある作品
 です。

おしくら・まんじゅう

作者 かがくいひろし 作
 発行所 ブロンズ新社
 発行年 2009年
 サイズ 195x220mm

あらすじ
 おしくらまんじゅうの間に、色んな
 ものがはさまれて押されて
 いきます。
 押しつぶされたものがおきるのか...?

おすすめの理由
 ・同じリズムのくり返し、声に出して読めなくなる擬音で
 親子で一緒に楽しめます！
 ・難しいストーリーがないので、赤ちゃんから楽しめます！

梅本咲希

甲南子育てひろば 連絡先

〒658-0001
 兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
 甲南女子大学10号館5階(子ども室)
 お問い合わせ：TEL 078-413-3120
 MAIL hiroba@konan-wu.ac.jp